

鹿児島市 マイアミ通り利活用基本計画

—「変化」に対応し、楽しめるストリートをめざして—



※イラストは利活用イメージを示すために作成したものであるため、変更になる場合がある。

令和7年1月
マイアミ通りまちづくり協議会

事務局：鹿児島市／事務局支援：UR都市機構

1. 検討の背景と方向性

- (1) 歩いて楽しめるまちづくりの概要4
- (2) マイアミ通りの概要5
- (3) 公共空間の利活用に向けた考え方6
- (4) マイアミ通りの利活用に向けたロードマップ8

2. 利活用の試行による需要把握

- (1) 社会実験「マイアミフェスタ」の実施10
- (2) 来街者の声14

3. 利活用に向けた基本的な考え方

- (1) 検討の概要16
- (2) プレイスメイキングの考え方20
- (3) コンセプト、施設整備のあり方22
- (4) 利活用イメージ（短期）23

付録①マイアミ通りまちづくりNews vol.1-8

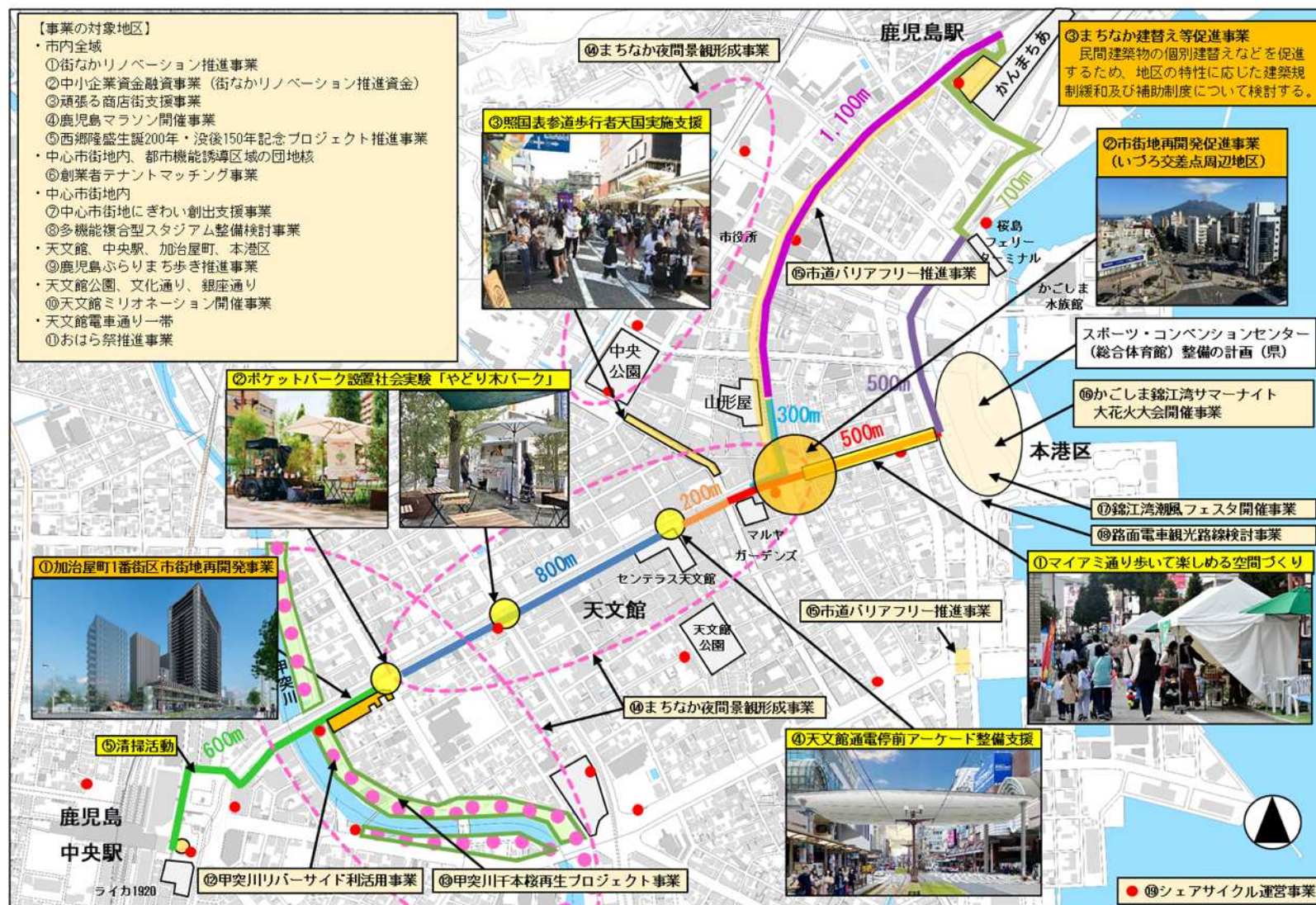
②マイアミフェスタのチラシ（R5、R6）

1. 検討の背景と方向性

(1) 歩いて楽しめるまちづくりの概要

- ・第六次鹿児島市総合計画では、中心市街地のさらなるにぎわいの創出や回遊性の向上を図ることとしている。
- ・市は、鹿児島中央駅から天文館、本港区、さらに鹿児島駅までのエリアにおいて、来街者のさまざまな消費行動やまちの魅力の気付きにつなげ、にぎわいとゆとりある都市空間の創出を図るため、「歩いて楽しめるまちづくり推進事業」を実施しており、本事業と関連事業を合わせて行うことで、中心市街地のにぎわい創出や回遊性の向上を図っている。

歩いて楽しめるまちづくり関連事業（中心市街地のにぎわい創出や回遊性の向上を図る事業：全27事業）【令和6年度】



①～⑤ 歩いて楽しめるまちづくり推進事業 ①～③ 市街地まちづくり推進課が所管する関連事業 ①～⑩ その他の関連事業

※詳細は市HPに掲載

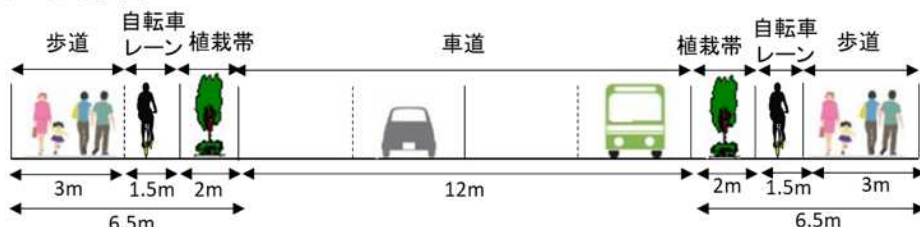
<https://www.city.kagoshima.lg.jp/kensetu/toshikeikaku/shimatiduku/machizukuri/machizukuri/aruitetanoshimeru/aruite.html>

(2) マイアミ通りの概要

- ・マイアミ通りは、天文館と本港区を結ぶ約350mの市道であり、市と姉妹都市である米国マイアミ市の名前からH6に命名。
- ・歩道のカラー舗装化や花壇の設置等が実施されているが、施設の一部が老朽化しており、リニューアル時期を迎えている。
- ・また、本港区のスポーツ・コンベンションセンター基本構想ではマイアミ通りが「主な歩行者動線」と位置付けられているとともに、いづろ交差点周辺では市が市街地再開発事業を活用した地区の整備方針を定める市街地総合再生基本計画を作成していることから、通りのリニューアルには、周辺開発の状況を考慮した検討が必要。
- ・これらの状況と国の「公共空間の利活用に向けた考え方」をふまえ、本計画を作成した。≫P.6-7に詳細掲載



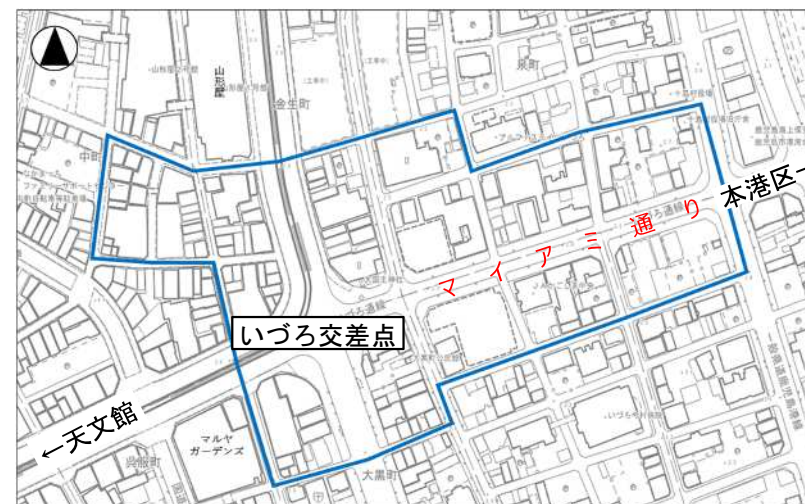
A—A' 断面図



マイアミ通りの状況



スポーツ・コンベンションセンター基本構想 (R4.3鹿児島県)

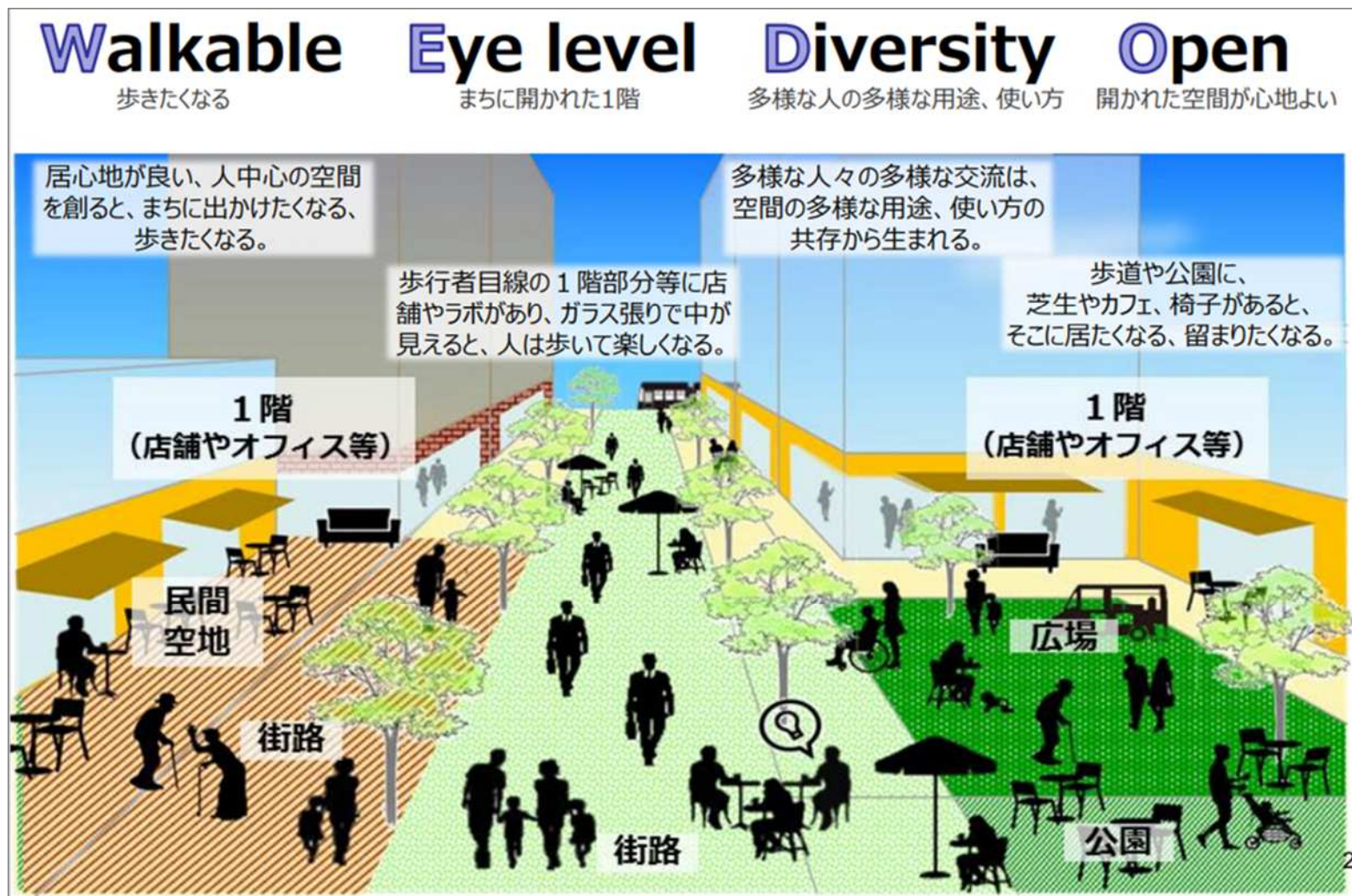


いづろ交差点周辺地区市街地総合再生基本計画の区域

(3) 公共空間の利活用に向けた考え方

①ウォーカブルなまちづくり

- ・人口減少や少子高齢化が進み、商店街のシャッター街化などによる地域の活力の低下が懸念される中、都市の魅力を向上させ、まちなかににぎわいを創出することが求められている。
- ・国土交通省では、車中心から人中心の空間へと転換を図るため、まちなかの歩いて移動できる範囲において、滞在の快適性の向上を目的として、道路・公園等の整備や利活用、滞在環境の向上に資する取組を推進している。
- ・この取組は「居心地が良く歩きたくなる」まちなかづくりとして、下図のとおり、イメージが示されている。



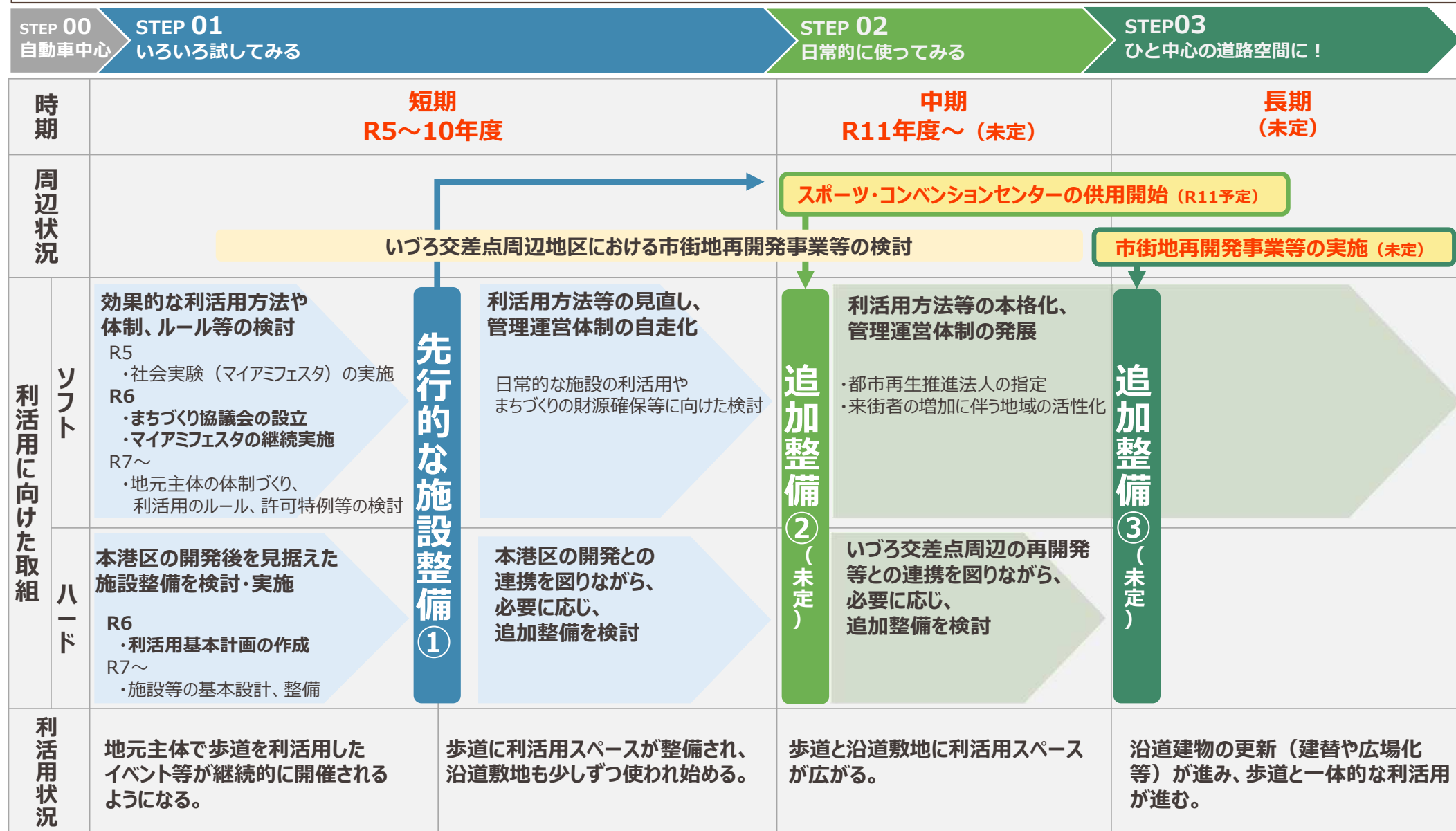
②ウォーカブルなまちづくりの進め方

・国土交通省の「ウォーカブルなまちづくりに向けたロードマップ」では、下図のSTEP01～03のように、公共空間の利活用に向けた取組を段階的に繰り返しながら、官民が連携してまちづくりを進めることが重要とされている。



(4) マイアミ通りの利活用に向けたロードマップ

- ・スポーツ・コンベンションセンターの供用開始までの短期（R5～10年度）には、試行を繰り返しながら、通りの利活用方法や体制、ルール等を検討するとともに、本港区の開発後を見据え、先行的な施設整備を検討・実施。
- ・以降の中長期（R11年度以降）では、施設を日常的に使いながら、本港区やいづろ交差点周辺における開発の状況をふまえ、利活用方法等の本格化や施設の追加整備に向けた検討を行うこととする。



2. 利活用の試行による需要把握

①概要

- 日時：令和5年11月26日（日） 11～15時（交通規制：9～17時）

ウォーターフロントパークの「オーガニックフェスタがごしま2023」、昭国表参道の「昭国ホコ天」等と同時開催

実施主体：鹿児島市／企画・運営：マイアミ通りイベント住民協議会／実施支援：UR都市機構

イベントの内容：(1) 歩道活用エリア：周辺住民による出店、キッチンカー・休憩スペースの設置

(2) 車道活用エリア：市民参加型ワークショップの開催、芝生広場の設置など

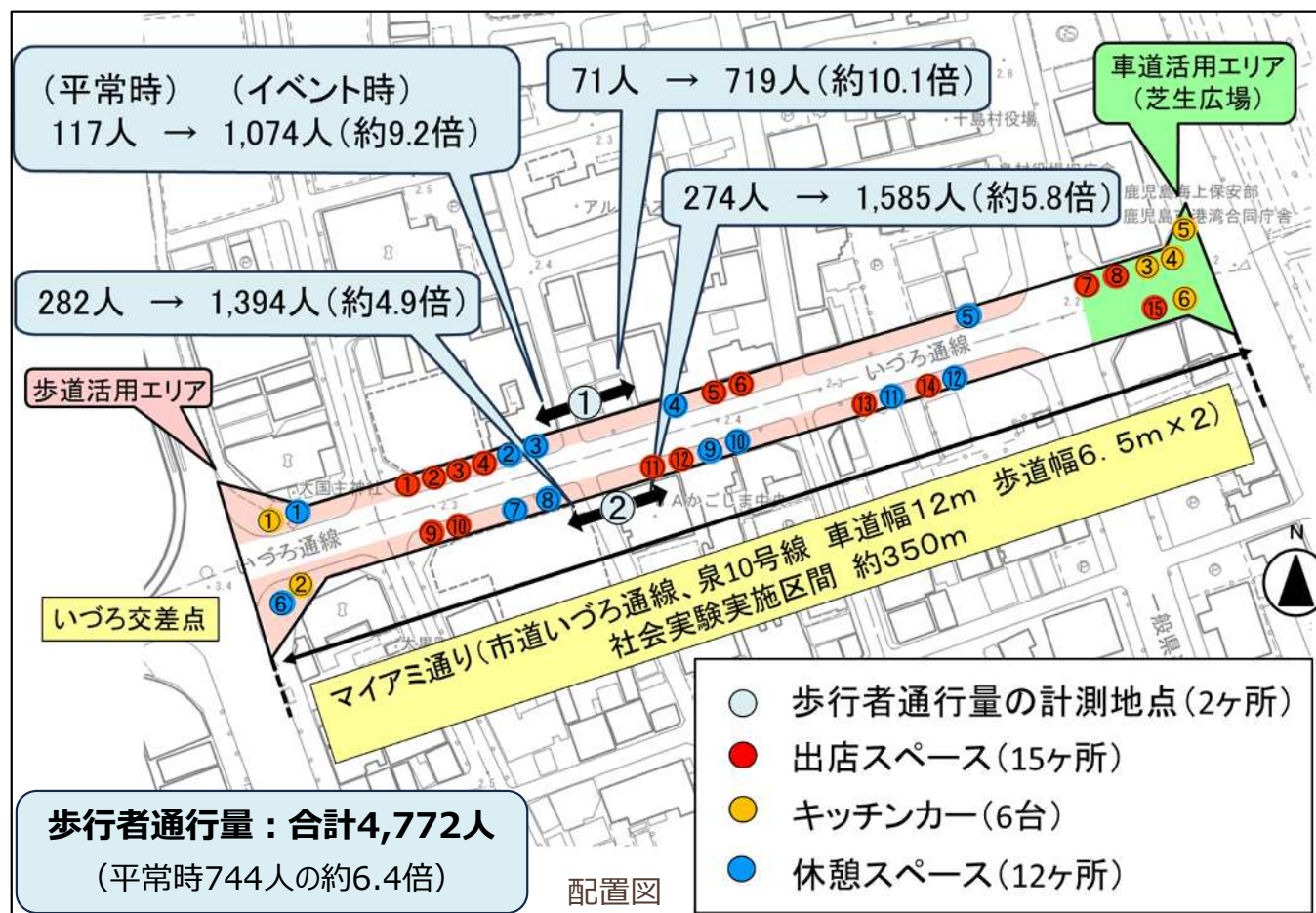


②効果検証の結果

- 【効果】
- ✓ 歩行者通行量の増加（平常時の約6.4倍）
 - ✓ 来街者の滞在性・回遊性の向上
 - ✓ 周辺店舗や住民とともにイベントに取り組んだことで、まちづくりの機運が向上

- 【課題】
- イベントの本格実施に向けた資金・人員の確保
 - 出店やイベントスペースの集約によるにぎわいの創出
 - 周辺店舗の売上増加

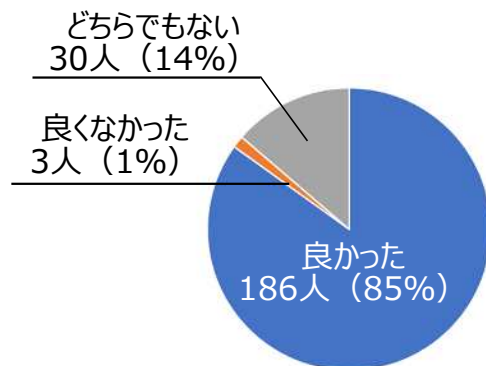
その他、社会実験による渋滞などの目立った影響は無し



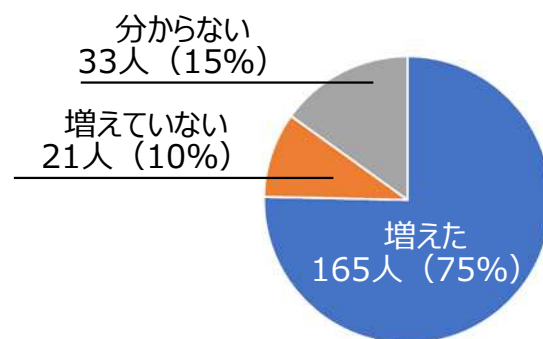
実施状況

■ 来場者向けアンケート（回答者数：219人）

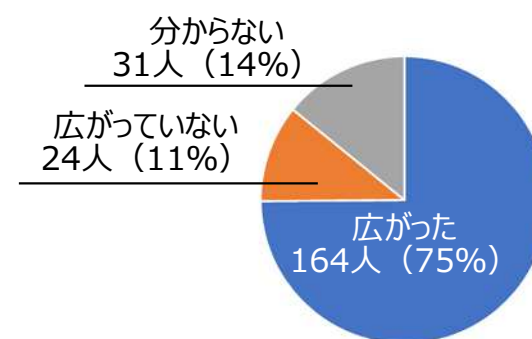
① 社会実験は良かったか？



② 中心市街地で過ごす時間は増えたか？

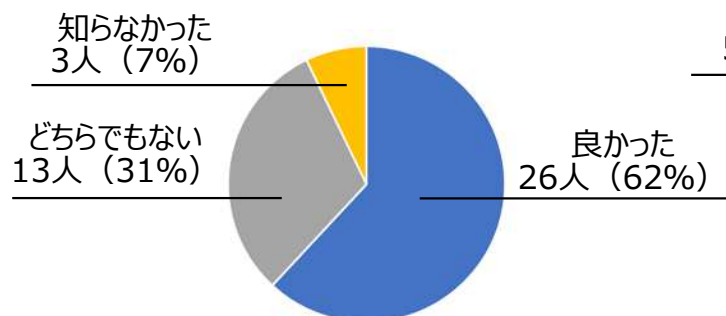


③ 中心市街地での移動範囲は広がったか？

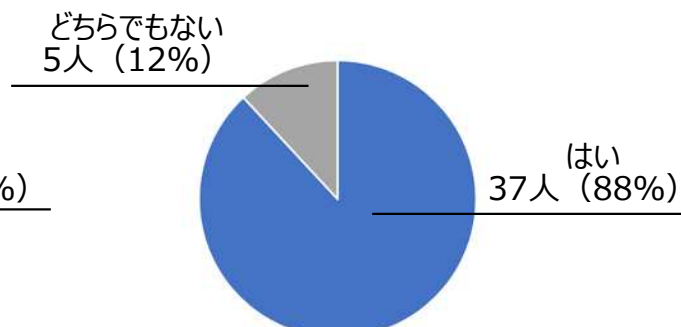


■ 周辺店舗・住民向けアンケート（回答者数：42人）

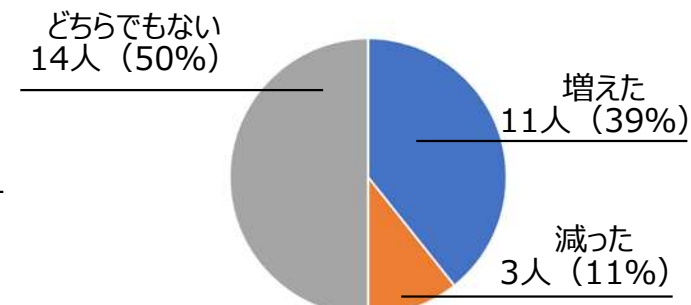
① 社会実験は良かったか？



② また開催したほうが良いか？



③ 普段より来店者数は増えたか？
【店舗事業者:28人】



③住民協議会による振り返り

- ・令和5年12月に住民協議会で「マイアミフェスタ」の振り返りを実施。
- ・歩道利活用、まちづくりへの参加などに関して前向きな意見が多数あり、施設整備やマイアミフェスタの継続実施などについて、官民がより一層連携して進めることになった。

【主な意見】

■良かったこと

- ・地域、市、URみんなで作りあげ、**地域のつながり**ができた
- ・天文館と本港区をつなぐ区間として、**人流や歩行者の増加**を確認できた
- ・居心地の良い空間づくりを試せた
- ・マイアミ通りの認知度が向上した
- ・出店や住民協議会発案による企画が好評だった

■良くなかったこと（改善点）

- ・ゾーニングやテント等の配置・デザインは改善の余地あり
- ・もっと出店が増えると良い
- ・周辺の巻き込み、PR、役割分担などについて、もっと工夫できればよかった
- ・イベント後も仮設されていたベンチは座っていいのか分からなかったという人がいた

■今後についての自由意見

- ・住民や企業が連携、交流しながら今後のマイアミ通りを考えたい
- ・体育館、スタジアム等々、**まちの変化**にどう対応していくか考えたい
- ・有識者を迎えるなどして計画を進めてほしい
- ・ベンチの設置やリニューアル、自転車レーン移設等、**ハード面の検討**を進めてほしい
- ・イベントで人が動くことは確かなので、**マイアミフェスタの継続開催**を希望
- ・普段のにぎわいにどうつなげるのか、**日常的にも歩きたくなる仕掛け・活動**を検討したい



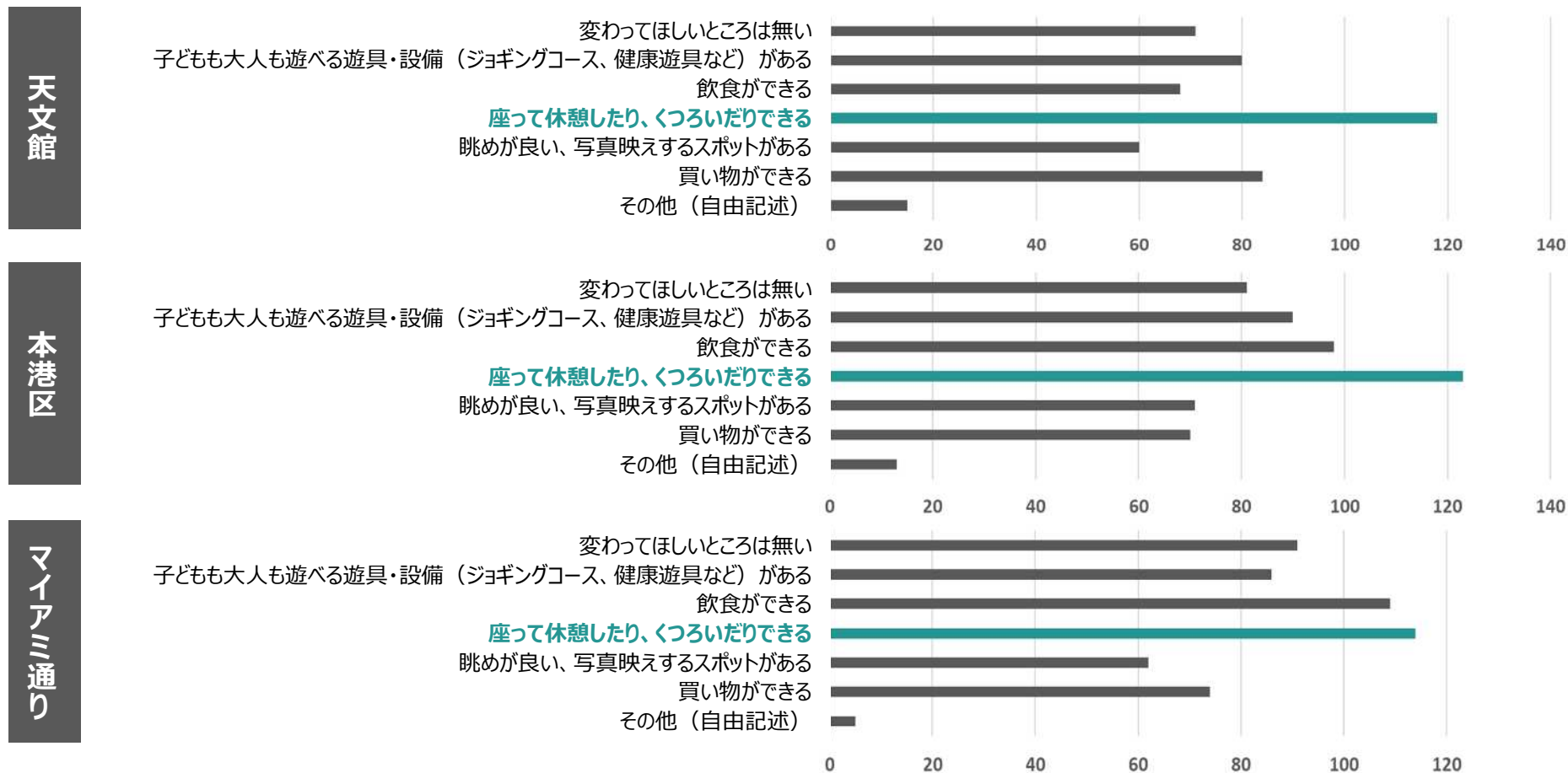
実施状況



振り返り会議

(2) 来街者の声

- ・社会実験の実施に合わせて、UR都市機構がスマートフォン等のアプリを活用し、来街者向けのアンケートを実施。
- ・天文館・本港区・マイアミ通りの各エリアについて、「どう変わったらもっと訪れますか？」という設問（最大3つまで複数選択可）に対し、【座って休憩したり、くつろいだりできる】空間を求める意見が全エリアで最多となり、休憩施設に対するニーズの高さを確認できた。



■ アンケート調査の概要

- ・実施媒体：移動やアンケートへの回答、ゲーム等でポイントが貯まるポイントアプリ「トリマ」
 ※公式HP <https://www.trip-mile.com/>
- ・配信範囲：トリマアプリユーザーのうち、令和5年11月26日のまちなか来訪者2,967名*に
 「まちなかの楽しみ方に関するアンケート」を配信（12月1日～7日）
 *右図の赤枠内で位置情報を取得した者
- ・設問内容：目的地、滞在時間、消費額、マイアミ通りの休憩施設の感想等、全11問
- ・回答件数：298件

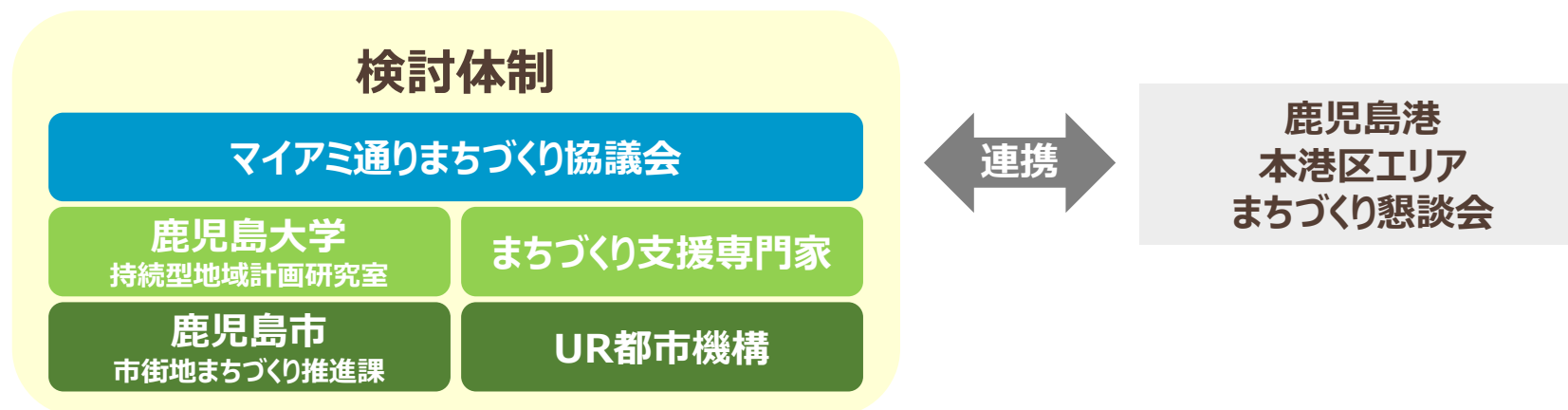


3. 利活用に向けた基本的な考え方

(1) 検討の概要

① 検討体制

- ・令和6年4月に住民との意見交換会を開催。市が「歩いて楽しめるまちづくり」や社会実験「マイアミフェスタ」の結果などを説明し、まちづくり協議会の設立について呼びかけた。また、県からも本港区のまちづくりについて情報提供があった。
- ・沿道地権者や周辺の店舗・住民の方々が会員となり、マイアミ通りの施設整備やマイアミフェスタの継続実施などについて、市と共に話し合い、取り組む組織として、6年5月、「マイアミ通りまちづくり協議会」が設立された。



民

- 5年度の社会実験実施のために設立・活動していた「マイアミ通りイベント住民協議会」の会員の多くが継続参加。その他の沿道地権者・住民らも随時加入し、6年12月までの参加者は全23名。
- 県が事務局を担う「鹿児島港本港区エリアまちづくり懇談会」に構成員として加わり、施設整備やイベント開催などのまちづくりの取組を進めるための情報共有や意見交換を行うことで、本港区開発との連携も図っている。

学

- 「URまちづくり支援専門家制度」を活用し、公共空間のデザイン手法、「プレイスメイキング」の第一人者である渡和由先生（筑波大学大学院非常勤講師、法政大学デザイン工学研究科兼任講師）がアドバイザーとして参加。まちづくり協議会での講演や本計画への助言等をいただいた。
- 鹿児島大学工学部の小山雄資准教授と持続型地域計画研究室の学生全10名が研究活動の一環で参加。

官

- 市が事務局、UR都市機構が事務局支援として会議の企画運営・進行等を担当。
- 鹿児島県都市計画課がオブザーバー参加。

②活動実績（令和6年度）

- ・設立以降、本計画作成まで毎月1回会議を開催。通りの利活用とマイアミフェスタの継続実施の両面について、検討を進めた。
- ・詳細は付録「マイアミ通りまちづくりNews」参照。
 市HPにも掲載 <https://www.city.kagoshima.lg.jp/kensetu/toshikeikaku/shimatiduku/machizukuri/machizukuri/maiama2.html>

	日程	利活用基本計画の作成に関すること	マイアミフェスタの継続実施に関すること
第1回	5/21(火)	渡和由先生ご講演「プレイスメイキングの考え方を取り入れたまちづくり」	
第2回	6/18(火)	現地調査	アンケートで出店・参加意向等を確認
	7月 上旬～下旬	地権者ヒアリング・歩道利活用マップの作成 	
第3回	7/30(火)	歩道利活用マップをもとに、利活用の仕方・必要な施設等について検討	
第4回	8/27(火)	渡和由先生ご助言 「スケッチワークショップ」によりイメージを具体化・共有 利活用基本計画の検討状況（情報共有①）	イベント企画のアイデア出し・開催日決定
第5回	9/24(火)		イベント検討状況等の共有・実施場所決定
第6回	10/22(火)	利活用基本計画の検討状況（情報共有②）	イベント検討状況等の共有・チラシ決定
第7回	11/19(火)		イベント検討状況等の共有
	11/24(日)		第2回マイアミフェスタの開催（詳細はP.19参照）
第8回	12/10(火)	利活用基本計画の検討状況（情報共有③）	マイアミフェスタの振り返り
第9回	1/21(火)	利活用基本計画（案）の最終確認	
第10回	3月（予定）	R7年度以降の利活用に向けた取組について検討	



▲現地調査では空気イスに座って歩道などの使い方をイメージ



▲回を重ねるごとに参加者が増え、話し合いが活発化



▲参加者が描いたスケッチを前に渡先生からアドバイス



▲マイアミフェスタの企画として、学生から壁面アート「リーガルウォール」の提案



▲マイアミ通りの未来が描かれた「リーガルウォール」を前に意見交換

■ 検討結果（一部抜粋）

まちづくり協議会の現地調査やワークショップ、アンケート等で、主に以下のキーワードやアイデア等が出された。

キーワード

先進的、実験的なストリート

桜島の景観、天文館から歩くときのワクワク感

可動式ストリートファニチャー（「運べる座り場」・「調節できる陰り場」など）

エリアのアイコン・とどまる場所

人の目の高さで様々な景色が見えると楽しめる（花・緑の高さを上げるなど）

フォトスポット、借景、モニュメント

待合せしたいと思える場所

朝陽がきれい

周りの小道に入って回遊

日常的に使える住民の拠り所

段階的整備

うみとまちと人をつなぐ

利活用・整備のアイデア

【利活用】誰がどんな使い方をしているか？	【整備】何が必要か？
地元の人や観光客等が信号待ちの時に 電車を眺めたり、写真撮影	・眺め場、フォトフレームの目印となる「借景枠」 ・歴史案内 ・かつて海だった場所を伝える舗装デザイン
地元の人や観光客等が 日陰で休憩、待合せ ＋屋根の部分に上って 眺める こともできる	・藤棚のような屋根付き休憩施設 （上部に植栽、地上は陰り場＋イス・テーブル）
かき氷を食べに来た客（夏季）や本港区イベント参加者が キッチンカーや屋台で飲食や買い物	・場所貸し可能なスペース（販売等） ・電源 ・給排水設備 ・街灯
通行人や車からも「 マイアミ通り 」であることがひと目で分かる	・フォトスポットになるモニュメント、アート
地元の人や観光客が信号待ちの時に ひと休み したり、 近隣ワーカーがランチや飲み物を買いに出て、 交流 が生まれる	・屋根 ・イス・テーブル ・協力店 ・電源 ・冷風機（水） ・音楽 ・案内所（人）
通行人、ベンチで休憩する人が アート作品などの展示を眺めたり、写真撮影	・ディスプレイ（作品）・電源 ・照明 ・オーニング ・花壇の歩道化（通行スペース確保）
本港区イベント参加者、クルーズ船観光客が天文館に向かう前に ポケットパークで ひと休み したり、 写真撮影	・陰り場（パーゴラ） ・可動式イス・テーブル ・街路樹を活かした座り場 ・歩きやすい舗装
通行人や車利用者が ひと休み したり、コンビニ客が買ったものをその場で 飲食	・座り場 ・陰り場 ・手洗い場 ・車道から見えないような囲い場⇔車道からは眺め場

③第2回マイアミフェスタの実施

- ・令和5年度に市が社会実験として実施した「マイアミフェスタ」を、令和6年度はまちづくり協議会が主体となり、開催。
- ・協議会員らが中心となって企画検討・準備・運営を担い、周辺店舗や関係団体・法人などの協力も得て実現した。
- ・当日は秋晴れのもと、多くの人が出店ブースや周辺店舗に立ち寄り、買い物や体験などを様々に楽しむ光景が見られた。
- ・協議会として、今後の体制づくりなどを本格的に検討するための第一歩となった。

【概要】

■日時：令和6年11月24日（日）10～16時

■場所：マイアミ通りの歩道、沿道敷地、周辺店舗など

■実施主体：マイアミ通りまちづくり協議会

■実施支援：鹿児島市、UR都市機構

■イベントの内容

- ・周辺店舗等による出店（飲食物、雑貨など）
- ・体験（フラワーワークショップ、よかよか体操など）
- ・ストリートミュージアム（絵画などの作品展示、鹿児島大学持続型地域計画研究室によるリーガルウォールなどの創作体験）
- ・PLAY CITY! DAYS企画（謎解きまち歩き・マグニオンショップ）

■歩行者通行量：合計2,566人（平常時744人の約3.4倍）



【振り返りアンケートの主な意見】

■良かったこと

- ・多様な主体が協力したことにより、地域交流や新たなつながりが生まれる機会になった
- ・アート、飲食、物販、体験などの多様な企画により、多世代の滞留が生まれ、ふだんとは異なる風景を実現できた
- ・沿道や周辺のお店や人を知ってもらい、マイアミ通りを歩いて楽しむきっかけを作れた

■良くなかったこと（改善点）

- ・出店・企画が広範囲に分散立地していたため、一体感に欠けた
- ・看板などの設置や、イベントコンセプトの打ち出しが必要だった
- ・企画・準備段階での苦労があった
- ・予算を確保できれば、もっと充実したイベントにできる

■今後についての自由意見

- ・立ち寄りたくなる場となるよう、ハード・ソフト両面での魅力向上を進めていけると良い
- ・まちづくり協議会の発展、体制づくりが必要
- ・マイアミフェスタの継続開催を希望



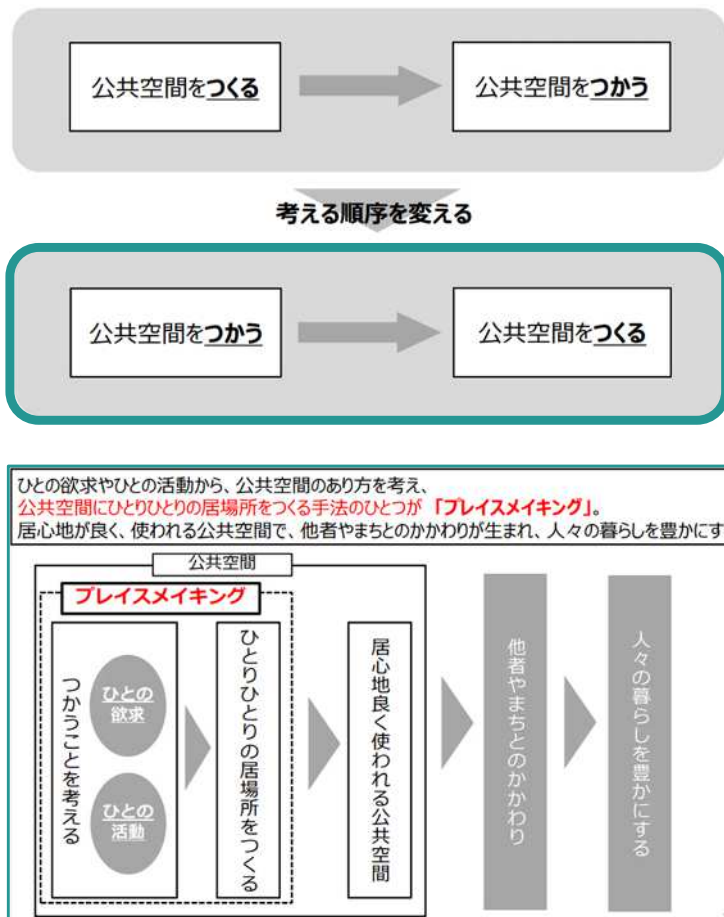
実施状況

利活用の本格化に向けた 当面の検討課題

- ・地元主体の体制づくり
- ・活動資金の確保 など

(2) プレイスメイキングの考え方

- ・本計画の検討に当たっては、「プレイスメイキング」の考え方を取り入れ、通りの利活用に向けた考え方を取りまとめた。
- ・特に以下2点に着目し、コンセプトや施設整備のあり方などについて、まちづくり協議会でアイデアを出し合った。
 - 1) 公共空間を「つくること」からではなく、「つかうこと」から検討することが、居心地が良く、使われる空間の実現につながる
⇒マイアミ通りで「何を整備すべきか」からではなく、「どんな利活用ができるか」から検討
 - 2) 「8つの場要素」*を組み合わせ、座り場を核とした人の居場所をつくる
*飲食、ひと休みなど、具体的に「～したくなる」、居心地のよい空間づくりのために必要となる要素
⇒日常と「マイアミフェスタ」での利活用状況などもふまえ、人々の行動・活動を具体的に想定



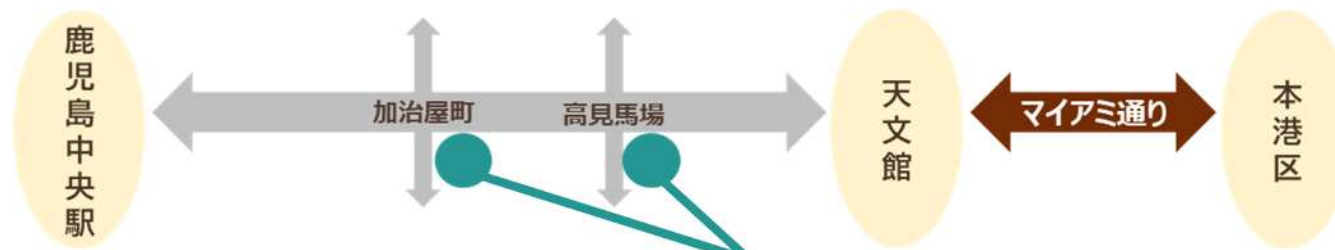
■ 8つの場要素の組合せ

基本：座り場＋複数の場を用意（8つの場要素を組み合わせることで人の居場所をつくる）



参考 プレイスメイキングの実践事例（ポケットパーク設置社会実験「やどり木パーク」）

「歩いて楽しめるまちづくり推進事業」として、加治屋町と高見馬場の交差点歩道等において、社会実験「やどり木パーク」を開催。前頁のプレイスメイキングの考え方を取り入れ、歩行者が立ち寄りたくなる居心地の良い空間を創出。アンケートや歩行者通行量調査等を行い、利用者などから好評を得た。



【概要】

- 日程：令和6年9～10月（全14日間）
- 場所：市電「加治屋町」と「高見馬場」の電停付近の交差点のうち、南東角の歩道（加治屋町では民間敷地の一部も活用）
- 実施主体：鹿児島市
- 実施支援：UR都市機構
- 企画運営：マンモス株式会社

【効果検証の結果（抜粋）】

- ✓ 高見馬場交差点においては、**多くの利用者や歩行者通行量の増加**が見られた。
- ✓ 中心市街地に買い物や通勤等の目的で訪れた際に、ポケットパークに立ち寄るなど、**来街者の歩行回遊性・滞在性の向上**が見られた。
- ✓ 今後の実施に対し、利用者や周辺住民、店舗事業者のほとんどが賛成していること、**テーブル・イスや日よけ、植栽、音楽など、多くのニーズがある**ことが分かった。

「8つの場要素の組合せ」をまちなかの道路空間で試行



(3) コンセプト、施設整備のあり方

以下の様々な変化に対応しながら段階的な整備を行うことにより、地元住民が主体となる多様な活動が繰り広げられ、来街者が立ち寄り、憩う空間となることを目指す。

コンセプト

「変化」に対応し、楽しめるストリート

視点

利活用の変化

日常的な市民の利活用から
来街者向けのイベント開催時まで、
多様な用途に対応する。

・キッチンカー等の乗入れスペースや電源・水栓等のインフラ設備を確保し、沿道敷地との一体的利活用が可能な空間を創出する。

自然環境の変化

天候・気温・日陰の移り変わり、
特に夏の暑さや降灰に備えた空間を形成する。

・既存の花壇等を一部改修し、日陰や植栽に配慮した休憩施設等の設置により、居心地の良い空間を創出する。

景色の変化

電車通りから桜島や錦江湾へとつながるまっすぐな道、
緑・花、歴史等を活かした景観を形成する。

・植栽やアートの展示空間等、視覚的に楽しめる空間を創出する。

開発による変化

本港区の開発等に伴うエリアの位置付けをふまえ、
各敷地・施設等と道路が一体的に利活用されるよう、
相乗効果を図る。

・ベンチ等のストリートファニチャーは、将来的に移設する可能性も考慮する。
・周辺開発との連携を図り、前面道路への一時的な出店等や暫定的な利活用を試行する。

（４）利活用イメージ（短期）

- ・前頁のコンセプト、施設整備のあり方をはじめ、まちづくり協議会で実施した「スケッチワークショップ」のアイデア、マイアミフェスタでの実践や専門家からの意見等をもとに、利活用イメージを作成した。
- ・イラストは利活用イメージを示すために作成したものであるため、変更になる場合がある。特に、車道と沿道敷地の利活用や、可動式ストリートファニチャーの設置については、関係者との協議・検討を重ね、内容を決定する。

■ イベント開催時の通り全体のイメージ —いづろ交差点側からの鳥瞰図—

いづろ交差点の角地や沿道に出店、休憩スペースが設置されたり、車道の一部通行止めなどを想定

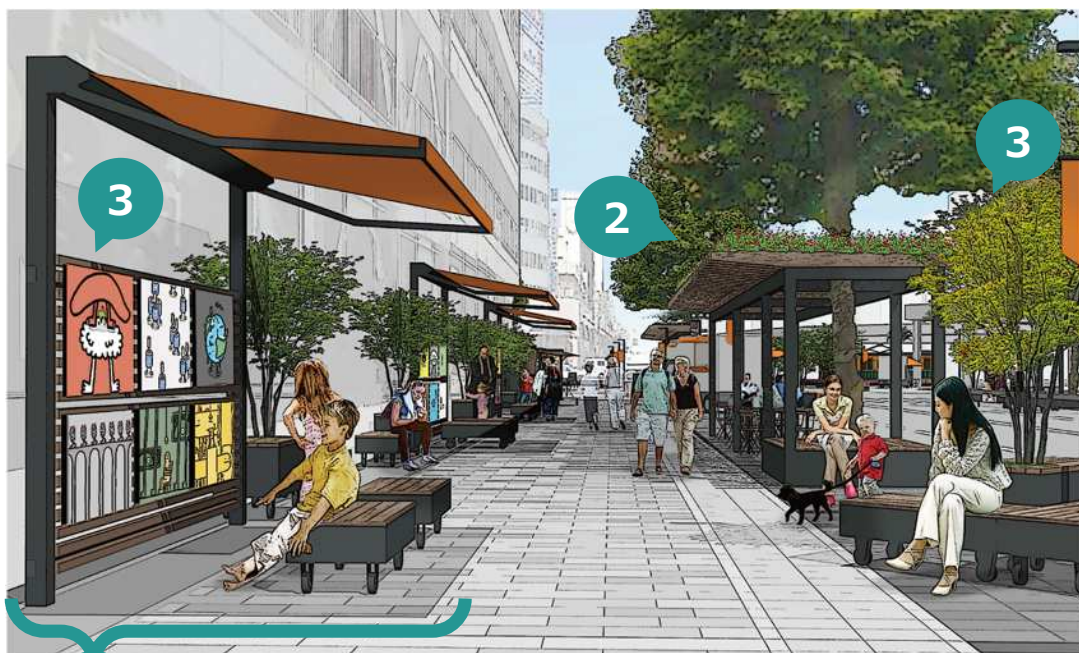


※イラストは利活用イメージを示すために作成したものであるため、変更になる場合がある。

■ 具体的な利活用イメージ



※イラストは利活用イメージを示すために作成したものであるため、変更になる場合がある。



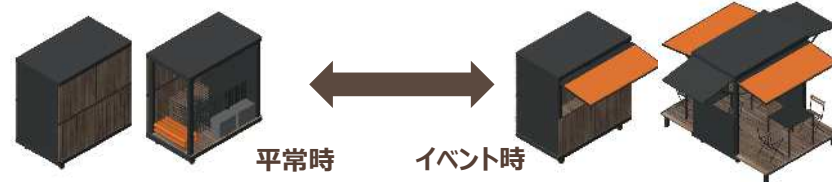
※イラストは利活用イメージを示すために作成したものであるため、変更になる場合がある。

- 1 キッチンカー等の乗入れスペース 【座り場+食場】**
座れる場所の近くに飲食物の提供があると、買い物やイベントの行き帰りなどの際にひと休みできる。
- 2 日陰や植栽に留意した休憩施設 【座り場+陰り場・囲い場】**
屋根付きの休憩施設があると、日差しや雨を気にせずゆっくり座って過ごせる。
- 3 植栽やアートの展示空間 【座り場+眺め場】**
ベンチと植栽が並んでいたり、壁面に絵などが飾られていると、イベントが無い日も、通りすがりでも楽しめる。
- 4 歩道と沿道敷地の一体的な利活用 【座り場+食場・話し場・眺め場】**
一部のストリートファニチャーを可動式とすることで、より多様で、可変的な使い方ができる。

「変化」に対応するストリートファニチャーの例

利活用・景色・開発の変化

〈A〉休憩・食事施設等としても利用できる車輪付き倉庫



〈B〉道路や沿道敷地の状況に応じて移動できる植栽付きベンチ



〈C〉天候などに応じて開閉できるオーニング（日よけのテント）



自然環境の変化